

令和4年度 総務企画委員会 県内所管事務調査の概要

【令和4年5月11日（水）】

◆調査箇所：大分県立美術館、i i c h i k o総合文化センター（大分市寿町、高砂町）

＜概要＞

大分県立美術館、i i c h i k o総合文化センターの指定管理者である公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団から、財団の概要や組織、財務状況、美術館の入館者の状況、総合文化センターの自主事業、美術館の企画展、教育普及・学校連携に係る事業、天井耐震改修工事等について説明を受け、意見交換を行った。

引き続き、i i c h i k o総合文化センターの工事箇所や県立美術館で開催中の「コシノジュンコ展～原点から現点」など館内施設を調査した。

＜主な質疑等＞

- ・ i i c h i k o総合文化センター改修期間における財団職員の人員配置について
- ・ コロナ禍における企画展開催の苦勞と来場者の状況について
- ・ 県からの指定管理による受託料について
- ・ 美術館の教育普及・学校連携事業について



◆調査箇所：南部振興局

＜概要＞

南部振興局における組織及び人員、管内の概況、危機管理体制と対応状況、地方創生の取組（地域活力づくり総合補助金、地域課題対応事業、ネットワーク・コミュニティ推進体制整備・モデル委託事業小規模集落等支援事業費補助金、移住・定住対策）新型コロナウイルス感染拡大の影響と取組状況、コロナ禍の影響と再活性化等について説明を受け、意見交換を行った。

＜主な質疑等＞

- ・ 小規模集落対策事業、ネットワーク・コミュニティ推進事業の詳細について
- ・ 佐伯市の移住者数と人口増減について
- ・ うめキャンプ村を核とした体験型コンテンツの充実の詳細について
- ・ 農林水産業の後継者育成と漁業者、林業者の連携について



◆調査箇所：みんなのえがお（佐伯市長島町）

＜概要＞

在宅支援クリニックえがおの山内代表は、高齢者や障がいのある方が、住み慣れた地域で楽しく暮らしていくことを支援するため「みんなのえがおプロジェクト」を立ち上げている。その活動内容は、お出かけ支援、食の支援、生活支援などであるが、障がいのある方や高齢者も運営側として参加するなど支援する側・される側に分けず、ごちゃ混ぜで運営していることが特徴である。

当日は山内代表から、プロジェクトの概要やえがおお弁当の取組等について説明を受け、意見交換を行った。

＜主な質疑等＞

- ・ えがおプロジェクト立ち上げの契機について
- ・ えがおプロジェクト運営面の課題と行政や民間からの支援について
- ・ 利用料金等について



◆調査箇所：直川地域新たな地域コミュニティ組織を考える会（佐伯市直川赤木）

<概要>

佐伯市直川地域では、過疎化や高齢化が進み、合併後は商店が激減するなど、買い物に困難な状況も生じている。そういった地域課題を解決するため、令和3年8月から直川地域住民でワークショップ開催や住民アンケートを実施し、新たな地域コミュニティを創る方針が決定、令和4年度からは設立準備会を立ち上げる予定である。

当日は、佐伯市のコミュニティ推進指針や直川地域での検討結果等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・新たな地域コミュニティ組織の具体的な体制や組織継続について
- ・地域コミュニティ組織の財源確保と直川地域協力隊について
- ・通勤通学や高齢者の買い物等の課題とコミュニティバス、住民タクシーについて

【令和4年5月12日（木）】

◆調査箇所：朝地町観光推進協議会（豊後大野市朝地町）

<概要>

朝地町観光推進協議会は、九州オルレ奥豊後コースの起点となる朝地駅を拠点として地域活性化に取り組んでいる。コロナ禍により外国人観光客の入国が制限されているが、オルレ飯の開発や販売、九州オルレ10周年記念イベントを開催するなど、地域住民も楽しめるイベントを開催している。

当日は、朝地町観光推進協議会の概要や九州オルレ奥豊後コース認定までの経過、オルレ参加者の推移、オルレを核とした地域振興の取組等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・奥豊後コースの難易度と定期的なオルレ行事の開催について
- ・普光寺磨崖仏や朝倉文夫記念館との誘客連携について
- ・JR九州との朝地駅の利用に関する協定、利用料等について

◆調査箇所：豊肥振興局

<概要>

豊肥振興局における管内の概況と特性、令和4年度豊肥振興局の重点項目、組織及び人員、地区災害対策、特定家畜伝染病防疫対策、地域活性化施策（地域活力づくり総合補助金、竹田隠しキリシタン観光魅力発信事業、道の駅原尻の滝における「おおいた和牛」を活用した地域活性化事業）、小規模集落対策、食観光魅力発信事業、新型コロナウイルスにおける影響等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・農家民泊の現状について
- ・アウトドア観光（テントサウナ）による雇用創出や森林組合との連携について
- ・竹田隠しキリシタン観光魅力発信事業について
- ・水害時の庁舎浸水対策について

◆調査箇所：竹田キリシタン資料館(NPO法人竹田市ツーリズム協議会)(竹田市竹田町)

<概要>

竹田キリシタン資料館は、豊後竹田駅から徒歩3分に位置する城下町や市内観光の総合ガイド拠点である。資料館内には竹田に受け継がれるキリシタン遺物や貴重な資料が展示・保存されている。竹田市にはキリシタン墓石と思われる墓地が市内全域にわたって見られるなど、隠しキリシタンの遺物が多数あり、ガイドによる案内を行うことで滞在型観光のコンテンツとなることが期待されている。

当日は、後藤所長から竹田における隠しキリシタンの歴史や展示された遺物の来歴などについて説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 隠しキリシタンの歴史と現在の竹田市のキリスト教信者について
- ・ SNSによる情報発信と訪問観光客の動向について
- ・ メディアミックスによる隠しキリシタンの情報発信について

【令和4年5月19日(木)】

◆調査箇所：宇佐市外国人総合相談センター

<概要>

県北の宇佐市、中津市では外国人技能実習生等の居住が増えており、宇佐市では市町村が設置する窓口としては県内初となる外国人総合相談センターを令和3年6月に設置している。日本人ほかベトナム等の外国人相談員を設置し、週4日生活不安等の相談やトラブルの対応を行っている。

当日は、相談窓口を受託するOne Pound合同会社の概要や相談件数及び内容、周知活動や企業訪問の状況などについて説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 相談スタッフの人数と宇佐市からの業務委託料について
- ・ 県の外国人相談センターとの連携と相談に応じた専門機関への振り分けについて
- ・ 宇佐市に居住している外国人の人数と職業について
- ・ 外国人技能実習生の日本語習熟度について

◆調査箇所：北部振興局、中津県税事務所

<概要>

北部振興局における管内の概況、組織及び人員、危機管理対策、新型コロナウイルス対応、地方創生移住・定住対策、地域活力づくり総合補助金等を活用した地域・観光振興、小規模集落対策、観光の再活性化の取組等、中津県税事務所における管内の概況、組織、重点事項、令和3年度県税決算見込額、税目別調定額・収入未済額・徴収率の推移等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 管内養豚場におけるイノシシを媒介した豚熱の感染対策について
- ・ 新型コロナやウクライナ情勢による自動車関連事業者の影響について
- ・ 管内市町村の津波防災対策や地域防災組織の状況について
- ・ 県税事務所におけるキャッシュレス対応の状況について
- ・ 農家民泊の現状について

◆調査箇所：NHK朝ドラ「南一郎平」誘致推進協議会（宇佐市金屋）

<概要>

日本三大疎水の父と呼ばれる南一郎平は宇佐市金屋の出身であり、広瀬井路の開削により宇佐市の農業基盤を整備した人物である。NHKの朝の連続テレビ小説の誘致により、その偉業を全国に知らしめるとともに、観光誘客や地域活性化の起爆剤にするため、誘致推進協議会が結成され、取組を続けている。

当日は、事務局長からこれまでの誘致活動の取組や偉業をわかりやすく紹介するマンガの作成、地元の米を使用した甘酒造りの製造・販売等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 広瀬井路の総延長と宇佐市における配水範囲について
- ・ 宇佐市民への南一郎平の認知状況について
- ・ 南一郎平が創立した現業社の事業内容等について

◆調査箇所：中津市歴史博物館（中津市三ノ丁）

<概要>

中津市歴史博物館は、中津市の貴重な文化財を収集保存、研究するため令和元年11月に開館している。中津城に隣接することにより歴史と観光を結ぶ拠点として、また、カフェ等を併設することで、中津市民や観光客が学び交流する文化の発信拠点として機能することも期待されている。

当日は、高崎館長から博物館の概要について説明を受け、意見交換を行うとともに、展示されている中津祇園車や企画展「大耶馬溪博覧会やばのみほとけ」の見学を行った。



<主な質疑等>

- ・ 収蔵品について
- ・ 県内市町村の歴史博物館の設置状況について
- ・ 年間の来館者数と有料、無料の人数について
- ・ 中津歴史博物館の場所選定の経緯と中津城との相乗効果について

【令和4年5月20日（金）】

◆調査箇所：豆田町上町通り商店会、豆田みゆき通り商店街（日田市豆田町）

<概要>

日田市豆田町は重要伝統的建造物群保存地区に選定される日田市観光の中心であり、現在も多くの商店や飲食店等が営業を行っている。新型コロナウイルス感染症の拡大により、国内外の観光客が減少したが、豆田町上町通り商店会と豆田みゆき通り商店街が連携し、食に関するイベントや野点体験を実施することで、新たな魅力を発信し、観光誘客や商店街へのリピーターづくりに取り組んでいる。

当日は、豆田茶寮や豆田茶会の取組について説明を受け、意見交換を行うとともに、豆田町の散策も行った。



<主な質疑等>

- ・ 豆田上町通りや豆田御幸通りの交通規制の検討状況について
- ・ 豆田茶寮や豆田茶会の周知方法について
- ・ イベント開催時のマンパワー確保について

◆調査箇所：西部振興局、日田県税事務所

<概要>

西部振興局における管内の概況、組織及び人員、危機管理対策、情報発信、地域活性化策の推進（地域活力づくり補助金、ツールド九州2023、移住・定住の促進）、小規模集落対策、観光・商工業の振興（新型コロナウイルスの影響、ゴールデンウィークの観光動向）等、日田県税事務所における管内の概況、組織、重点事項、令和3年度県税決算見込額、税目別調定額・徴収率の推移等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・観光情報発信サイト「オーワ！」と個人向け体験型滞在について
- ・管内宿泊施設の倒産状況と残された施設の利用状況について
- ・小規模集落対策の取組について
- ・各市町村での移住と捉える基準の相違について



◆調査箇所：日田市天瀬町赤岩自治会杉河内班

<概要>

日田市天瀬町赤岩自治会杉河内班は、杉河内コミュニティ運営協議会を地域活性化の有効なツールとし、杉河内小学校を拠点に地元農産物の加工や直売地域防災訓練など様々な活動に取り組んでいる。

当日は平野会長や梶原事務局長から大分県里のくらし支援事業による食品加工場の新設や黒ニンニク製造の取組、慈恩の滝観覧施設の整備、柚皮を活用した柚チョコレート（オレンジット）の商品開発等について説明を受け、意見交換を行うとともに、食品加工場の調査や農産加工品の試食等を行った。



<主な質疑等>

- ・自治会の法人登録について
- ・黒ニンニクやオレンジットの販売先や収益の見込みについて
- ・食品加工施設で働く人員について
- ・しいたけ乾燥施設を利用した干し柿の製造と販売先の見込み等について

【令和4年5月25日（水）】

◆調査箇所：きつき小町会（柳家）（杵築市杵築）

<概要>

きつき小町会は、子育てをしながら杵築で商いをしている女性4人で平成30年2月に結成され、杵築PR活動や子どもの心育成活動を行っている。令和2年度に新型コロナウイルス感染症が拡大した際は、家に閉じこもり外出できないお母さんや子どもたちを支援する目的で、市内飲食店の持ち帰りや、きつきドライブラリーなどを開催し、県女性チャレンジ賞を受賞している。

当日は小倉代表から、きつき小町エール事業やドライブラリーの概要について説明を受け、意見交換を行った。また、活動拠点であるキッチン付きシェアスペース「柳家」の視察も行った。



<主な質疑等>

- ・SNSを利用した情報発信について
- ・県の補助金活用について
- ・きつき小町エール事業の企画検討と実施までの期間について

◆調査箇所：東部振興局、別府県税事務所

<概要>

東部振興局における組織及び人員、管内の概況、危機管理対策、地域活力づくり総合補助金、小規模集落対策、地域課題の解決対応事業（スペースポート受入環境整備）、新型コロナウイルス感染症の影響と取組、別府県税事務所における組織及び人員、令和4年度重点取組事項、令和3年度県税決算見込額、税目別調定額の累年比較・徴収率の推移についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・スペースポート受入環境整備について
- ・大分空港へのアクセス改善について
- ・東部振興局所在地の検討について
- ・小規模集落対策における市町村との連携について



◆調査箇所：国東半島カルチャーツーリズム推進事業国東市実行委員会 レイチェル・ホワイトリード氏アート作品（国東市国東町鶴川）

<概要>

国東半島カルチャーツーリズム推進事業では、現代アート作品を令和2年度に市内3か所、令和3年度に1か所設置し、国東半島芸術祭で整備した既存の3作品と合わせて国東半島カルチャーツーリズム周遊コースを構築し、地域振興や観光誘客の促進を図っている。

当日は、ツーリズム事業の概要や鶴川商店街周辺観光拠点推進プロジェクトについて説明を受け、意見交換を行うとともに、レイチェル・ホワイトリード氏の作品を観賞し、解説を受けた。

<主な質疑等>

- ・国東半島カルチャーツーリズム推進事業の予算と今後の周辺整備計画について
- ・国東半島を周遊するための公共交通アクセスの改善について
- ・日本遺産や日本風景街道との連携について



【令和4年5月30日（月）】

◆調査箇所：中部振興局、公文書館、大分県税事務所

<概要>

中部振興局における管内の概況、組織、危機管理対策、新型コロナウイルスの影響と対応、地域活性化の推進（旧町村部地域の振興、移住定住促進等）小規模集落対策、観光・商工業の振興（保戸島の活性化等）、公文書館における沿革・組織、施設・事業の概要等について、大分県税事務所における管内の概況、組織、令和3年度県税決算見込額、税目別調定額・収入未済額・徴収率の推移、特別滞納整理室の処理状況等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・半導体供給不足等による経済の下振れリスクと法人二税について
- ・令和4年1月22日に発生した日向灘沖地震による被害や管内事業者への影響と職員の参集状況について
- ・公文書館の年間利用者数と職員の勤務態勢について
- ・防災士の登録率と災害時要支援者に関する市町村との連携について



◆調査箇所：臼杵食文化創造都市推進協議会（臼杵市深田）

<概要>

臼杵市は、人も環境も健康のもとで食を楽しみ、次世代につなぐまちを目指すことを基本目標とした食文化を核としたまちづくりを進めている。

当日は、臼杵市食文化創造都市推進室から、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟認定、臼杵食文化創造都市推進会議の概要、発酵・醸造の食文化、循環型有機農業の取組、シビックプライド醸成、令和3年度の事業取組状況などについて説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・「ほんまもん農産物」認証制度と生産者の理解について
- ・みそ、醤油等の製造に係る原料調達と国際情勢の影響について
- ・食文化発信によるシビックプライドの醸成の取組と臼杵市民の認知度について

◆調査箇所：株式会社久家本店（臼杵市江無田）

<概要>

臼杵市に本社がある株式会社久家本店は、江戸時代から続く歴史ある醸造蔵である。県産原材料の100%使用、とりわけ臼杵市産の使用割合を増やす取組を続けており、地域循環社会を推進する酒造場をスローガンにしている。

当日は、臼杵ブランド認証の取組や“うすきの地もの「臼杵ブランド」酒のタベ”の開催状況などについて説明を受け、意見交換を行うとともに、工場見学を行った。



<主な質疑等>

- ・銘酒「一ノ井手」命名の由来について
- ・酒粕や焼酎かすの販売や廃棄等について
- ・新型コロナウイルスや燃料価格高騰の影響について

◆調査箇所：津久見市観光協会（津久見市中央町）

<概要>

津久見市には日本最大級の石灰石鉱山があり、セメント産業が市の基幹産業となっている。津久見市観光協会では、産業観光を通じた企業価値向上と地域振興の共存共栄を目指し、石灰石・セメント産業を軸とした産業観光の取組を進めている。

当日は、産業観光推進に伴う津久見市の体制や観光庁の域内連携事業、Web社会見学の実施状況などについて説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・石灰石の埋蔵量について
- ・エデュケーショナルツーリズムの対象について
- ・観光協会の会員数について